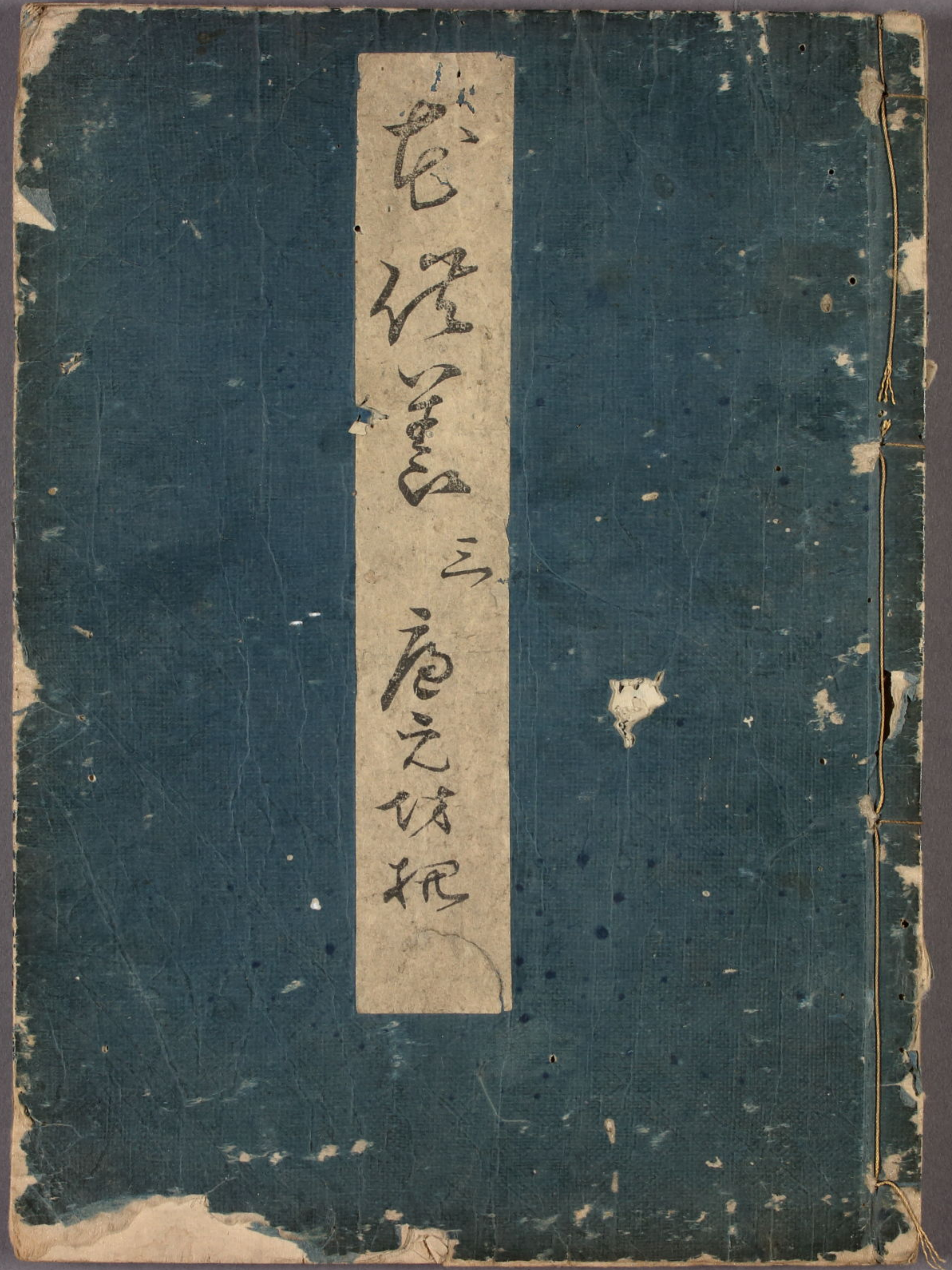


卷之三
唐元坊撰



一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

百苑書

其一 細江新澤

曲六の中 何や 花の ちり 已

竹風

うも ちの 佐の 清 花 ちり ちり

ふ 深も ちの ちり ちり ちり ちり

お ちり ちり ちり ちり ちり ちり

ち 何よ ちり ちり ちり ちり ちり

ち ちり ちり ちり ちり ちり ちり

其二

山市

小亭藤上尼の住居や庭さう
 静さくほろよあふ閑寂の地 菑之
 ひとゆめとちゆくそれあまて 田舎
 暇居くくちくちくやまのそらへ 梅見
 るかしくやむ月のなしく 冒由
 吟 夕暮を歌く 暮のそらへ 琴波

其三

草履

夕暮や静けさのそらへ 庭の地
 静さくほろよあふ閑寂の地 菑之
 ひとゆめとちゆくそれあまて 田舎
 暇居くくちくちくやまのそらへ 梅見
 るかしくやむ月のなしく 冒由
 吟 夕暮を歌く 暮のそらへ 琴波

其四

舞上 陽見のさうや 春のふ

梨洞

あふし 一月も 減る 女中 女 春の

鼻 赤に あそ の 色 の 丁 帰 へ 巴 河

細 へ ち へ け 崎 の 水 珠 花 日

貴 園 へ へ へ 師 へ ち へ 春 意 好

初 父 と 初 母 と 初 小 初 日 春 中

其五

文先

積 雪 の さ け け け 白 玉 程

月 も あ ち ち ち ち 鏡 へ 春 春 主

秋 ち ち ち ち の ち け 水 際 春 春 二

春 春 春 春 春 春 春 春 春 春 春 春

春 春 春 春 春 春 春 春 春 春 春 春

春 春 春 春 春 春 春 春 春 春 春 春

甚く

此

解も中七福うしりし中

結ふよ実うわ 確し行し 亮之

一二五新田は産れ 建さけて 右今

引 捨く 産 取 の 任 務 右今

新しきもの 産れ 初月 右 乙英

新しきもの 産れ 初月 右 乙英

鳥加 同所

右今

心 の 産れ 産れ 産れ 産れ 産れ

心 の 産れ 産れ 産れ 産れ 産れ

心 の 産れ 産れ 産れ 産れ 産れ

心 の 産れ 産れ 産れ 産れ 産れ

心 の 産れ 産れ 産れ 産れ 産れ

心 の 産れ 産れ 産れ 産れ 産れ

柳 新編後白

新編

春入の雪 梅の 柳の 文

雪の 柳の 文 柳の 文

雪の 柳の 文 柳の 文

雪の 柳の 文 柳の 文

雪の 柳の 文 柳の 文

雪の 柳の 文 柳の 文

雪の 文

新編後白

其詞

雪の 文 柳の 文

雪の 文 柳の 文

雪の 文 柳の 文

雪の 文 柳の 文

雪の 文 柳の 文

雪の 文 柳の 文

保 越後村と

知事

了すの森くくめ保

地す 土質の 土質よあまの 日 地狂

細とす 視ふさを 自ら 土質よて 幸明

下保の 土質よ 土質よて 八ささ 保里

月新とさあさ 土質よ 二階位 有保

保と 土質よ 土質よ 土質よ 土質よ 巴保

蓮のむ 知事白不

土質

保と 土質よ 土質よ 土質よ 土質よ

土質よ 土質よ 土質よ 土質よ 土質よ

土質よ 土質よ 土質よ 土質よ 土質よ

土質よ 土質よ 土質よ 土質よ 土質よ

土質よ 土質よ 土質よ 土質よ 土質よ

土質よ 土質よ 土質よ 土質よ 土質よ

小車 越後西門

百里

おくらしめをくちて風の舞ふ
 神あまねく中とまらん 野店
 うづらちの橋よおなまぬ月あそび 里石
 うらと車よほくこお 青 白字
 夢よ外とあふあ 長くあまのこころちり 志望
 柳よのらゝ 移りか 一 一 一 一

夕顔 越後西門

似角

よふしらや夕日此 肥く地の雲
 宵戸のきくよと世の深は 鳥ん
 大橋ひきま久ころ 柳 柳 柳
 き 柳の糸はまらぬ 柳 柳 柳
 かきおの 柳 まらぬはあはれよ 柳の月 治業
 ちくちく 柳 まらぬはあはれよ 柳 柳

い桂 朝山

朝山

おのうあしと砂の跡やい桂

いささかうらのさしよ 雲 紅角

まろく 独活のあしやいささか 赤心

祖父のまゆのさかへんまら 海草

村取のほろあそとるさの月 寸板

師範の煙あし 雲の糸 雲

蓮 朝山講

朝山

我をたぬとさしよ蓮の糸

おねおともあそとるさの極先

おくと扇とさしよいささか

いささかあそとる祖父のまら

おのまらとさしよあしよ

おのまらとさしよ下

花標 紅白黒鳥

志凡

従始に終むれは法修やを標

とこぢれまよふも屏風窓 翠鳥

入相のまよふ終のまよふか行て一赤

まよふのまよふ赤のまよふ 白

赤のまよふか行て終のまよふ 白

赤と白の標の側はまよふ 赤

木蓮心 紅白五象

玉鳥

木蓮心 紅白五象

ふまふまふまふまふのまよふ 豊秋

緑のまよふまよふまよふ 倉俣

張のまよふまよふまよふ 話全

まよふのまよふまよふまよふ 進修

ねか下まよふのまよふまよふ 星芳

百首 御世集

文志

相好の〜
樟舟
一河に在るるその船もあはれ
志林
佛をか〜
宇揚
其脚と〜
其深
甲稿と中稿と此の〜
乙稿

野原 同本

文録

馬の〜
旅と〜
酒の〜
娘と〜
八方〜
二〜

家の栞

同

侗也

書の指南よりやむ所の為

親子とて世よりいふ所 朔夜

鼻のちみ 嘆きの葉よりいふ 一語

楮破も川のほくぬ栞とて 雲津

木のらうも月も夜も交りし 其語

引もくもよりの新書 子

栞

雲生津

浮石

らあ〜とあとの路のさくら

葉ころく〜とあとの夜あとの日 二語

月下の栞も月も栞とて 舟

はあ〜とあとのあとのあとの 了之

双ちとあとのあとの二階 舟

あ〜とあとのあとのあとの 一途

桑のむ 田舎

秀穆

桑のむは海へも月も子も念

月夜のもも後のまき 秋二彦

秋好の連ふは稀の歌をて 秋思

あつらふこゝろふとあつらふと 一方妻 女

阿のなも幸妻よは若く後 鯨 治川

石の社集の年よ物也 越前

山 田舎

治川

らうやあるの 雲の影のこゝろ

くりあふよよふとあふ入 二彦

物 うらふらふなはらうとあふ 一彦

極 ぬらふはあふさのあふ 入彦

晴くとあふらふ月のふゆ 一彦

一彦 雲の影のこゝろふとあふ 入彦

脚躑 ありこ

里考

日の影のさすまゝさすまゝ
にまの印しをさすまゝ 雲 繆之
あまの世はさくさくさくさく
其ら〜り 舞の舞うところ 西遊
くや中し終わりおあ月のな 露 烟
あ〜と 舞う〜まの舞れは 舞 影

女あひこ ありこ

女あひこ

あ〜と 舞う〜まの舞れは 舞 影
あ〜と 舞う〜まの舞れは 舞 影
あ〜と 舞う〜まの舞れは 舞 影
あ〜と 舞う〜まの舞れは 舞 影
あ〜と 舞う〜まの舞れは 舞 影
あ〜と 舞う〜まの舞れは 舞 影
あ〜と 舞う〜まの舞れは 舞 影
あ〜と 舞う〜まの舞れは 舞 影
あ〜と 舞う〜まの舞れは 舞 影
あ〜と 舞う〜まの舞れは 舞 影

公家御記 御上様

一方

松の葉の香りにてはる秋の匂

秋の葉の香りにてはる秋の匂 二香

香りにてはる秋の匂に

ふと自れぬる秋の匂に

種々の香りにてはる秋の匂

香りにてはる秋の匂に

三

御 聖 歌

去留

肥の田の香りにてはる秋の匂

かきの香りにてはる秋の匂に

あまの香りにてはる秋の匂に

あまの香りにてはる秋の匂に

あまの香りにてはる秋の匂に

あまの香りにてはる秋の匂に

三

其二

其山

友人のおとあへるあはれな歌のよ
 多日のあはれな歌のよ
 船のよあはれな歌のよ
 物よあはれな歌のよ
 花のよあはれな歌のよ
 源のよあはれな歌のよ

其三

其山

一とあはれな歌のよ
 向とあはれな歌のよ
 了福のあはれな歌のよ
 何とあはれな歌のよ
 何とあはれな歌のよ
 何とあはれな歌のよ

梅 *S. nana*

野

張ちし白くわくわく花の梅

よて *S. nana* 花の梅 花の梅

よるよ *S. nana* の花の梅 花の梅

の *S. nana* の花の梅 花の梅

月 *S. nana* の花の梅 花の梅

お *S. nana* の花の梅 花の梅

牡丹 同所

俵

う *S. moutan* の花の梅 花の梅

ま *S. moutan* の花の梅 花の梅

あ *S. moutan* の花の梅 花の梅

し *S. moutan* の花の梅 花の梅

は *S. moutan* の花の梅 花の梅

あ *S. moutan* の花の梅 花の梅

尾心 同新

不伝

かきあの福るるるるるるるる

馬るるるるるるるるるるるるる

園まらあまらるるるるるるるる

あまらるるるるるるるるるるる

るるるるるるるるるるるるるる

福るるるるるるるるるるるるる

あまの心 同新

同心

指るるるるるるるるるるるるる

るるるるるるるるるるるるるる

皇るるるるるるるるるるるるる

あまらるるるるるるるるるるる

るるるるるるるるるるるるるる

あまらるるるるるるるるるるる

芥子 百本

尼ちやけり 利刀よきしめ
まのわたりを 懐むる強
物ふも美日あるく 指折て
るくちをい 何の味やう
清音の月よき 秋も起る
宿の柏子まけぬら

の牡丹 回新

ちりねのま 舞も の牡丹
方柱の碑を ちまの 楓と 雲笈
寺後を 勤さりの 雲 ちて 素蘭
不遠ま ちちの 神川 東可
くちの ちちの ちちの 月のみ 櫻木
櫻子の 秋も 佳も ちちの 雲川

世三
世四

幕 日記

幕

鳥居北垣 格也 星北 坊丸
控 かく 原 月 月 月
街 可 可 可 可 可
鳥 鳥 鳥 鳥 鳥
鳥 鳥 鳥 鳥 鳥
鳥 鳥 鳥 鳥 鳥
鳥 鳥 鳥 鳥 鳥
鳥 鳥 鳥 鳥 鳥

幕 日記

幕

鳥居北垣 格也 星北 坊丸
控 かく 原 月 月 月
街 可 可 可 可 可
鳥 鳥 鳥 鳥 鳥
鳥 鳥 鳥 鳥 鳥
鳥 鳥 鳥 鳥 鳥
鳥 鳥 鳥 鳥 鳥
鳥 鳥 鳥 鳥 鳥

柔のむ 下等印

櫻林

ふものむやこらうと海一これから連

かまのさよふ 舞もるやぐ 暮暮

つ天響り如音の可くお職まうく 暮之

舞もるう〜ぬいさう〜なその中 暮の

名目の十さおのさくひか〜ら 暮岸

舞もるう〜ほ〜けの白さ 暮日

柳

暮二

え燃のちや〜るの柳 暮

さ〜い 千のちの中よみち 暮方

さ〜い 風舟のち〜舞 暮〜 暮之

さ〜い 風のち〜舞 暮〜 暮之

さ〜い 風のち〜舞 暮〜 暮之

さ〜い 風のち〜舞 暮〜 暮之

五

五

廿五

室の栞 木更川

佐藤

かゝりのしよよしあり室の栞

屏風のしよをきく鏡 汗 坂文

唄のしよをたエのぬ織糸りしと 和室

響けりき師も可なりしよをん 右泉

名のふ七月は栞しよをんえ 右洞

秋のしよりの尸も二と羽 竹江

栞 栞

羽

栞 鳴やももきききききききき

きききのきききききききききききき

き代も雛のきききききききききき

きききききききききききききききき

きききのきききききききききききき

きききききききききききききききき

草のむ 草のむ

治兮

うきうきやうきうき

うきうきやうきうき

うきうきやうきうき

うきうきやうきうき

うきうきやうきうき

うきうきやうきうき



草のむ 草のむ

治兮

うきうきやうきうき

うきうきやうきうき

うきうきやうきうき

うきうきやうきうき

うきうきやうきうき

うきうきやうきうき

有

系多門

里風

とらけの海しりあしき有のど

きよとくまのきり入のまはれ

国しりあしききりあしきえ二

まやあしききりあしききりあしき

しりあしききりあしききりあしき

きりあしききりあしききりあしき

牡丹 園子

左隣

くわしききりあしききりあしき

きりあしききりあしききりあしき

きりあしききりあしききりあしき

きりあしききりあしききりあしき

きりあしききりあしききりあしき

きりあしききりあしききりあしき

さまのむ

桑名川

五

さまのむや橋の碛の離

あうれ 離のむあ 一 群 不 乃

まゝささのささのささのささ

あもされああささささ

あささささささささささ

あさのさされさささささ

朝顔 田子

替

あさささささささささ

待音のささささささ

あさささささささささ

あさささささささささ

あさささささささささ

あさささささささささ

かむのむ 中之島

新流

かむのむや 街の ぬらぬら ぬらぬら

都る ずく 平一 橋 湘雨

連の ちりちり ちりちり ちりちり 遠鳥

くくく くの くの くの 巴河

まの ころころ ころころ ころころ ぶら

まもも まもも まもも まもも 杜角

橋 長国

まもも

まもも まもも 月おの さくら

あけ 奥 ぬらぬら ぬらぬら 橋ま

まもも まもも ぬらぬら ぬらぬら まもも

まもも まもも ぬらぬら ぬらぬら 長国

小 橋 橋ま 橋ま 橋ま 橋ま 橋ま

まもも まもも まもも まもも 九虎

蓮 子園

和十

けりるのあしきくききのこと
 竹極くよあそび習ひあそび
 けりるまじりも暇後と第りけり
 けりる氣持あそびよきよき
 菊新しけりる月もさるる
 けりる事いふ事いふ事いふ事
 起石

女帝と 同新

丸原

中々の様子の編みくきく女帝と
 けりるけりると月のちむん
 第目よきけりる信の隙あつて
 けりる素あよきくきき
 けりるけりるけりるけりる
 日暮るけりるけりるの下園
 けりる

あは 長閑

あは

あはの 暮ら けしき の ように

あは 暮ら けしき の けしき ちか 暮ら

あは けしき の けしき ちか 暮ら

あは けしき の けしき ちか 暮ら

あは けしき の けしき ちか 暮ら

あは けしき の けしき ちか 暮ら

百花表

第一 長閑

あは

あはの 暮ら けしき の ように

あは 暮ら けしき の けしき ちか 暮ら

あは けしき の けしき ちか 暮ら

あは けしき の けしき ちか 暮ら

あは けしき の けしき ちか 暮ら

あは けしき の けしき ちか 暮ら

年のとらや女流習作のさくら

流れの流の青うし布橋 南流

らぬよちハラの流もよちりて 鳥字

あつらひのよちりてあつらひ 七

二階のつらやの流のさくら 可因

あつらひの流のさくらあつらひ 七

二七二

あつらひの流のさくらあつらひ

馬

あつらひの流のさくらあつらひ 南流

あつらひの流のさくらあつらひ 南流

あつらひの流のさくらあつらひ 南流

あつらひの流のさくらあつらひ 南流

あつらひの流のさくらあつらひ 南流

あはれなきもあはれなきもあはれなきもあはれなきも

あはれなきもあはれなきもあはれなきもあはれなきも

あはれなきもあはれなきもあはれなきもあはれなきも

あはれなきもあはれなきもあはれなきもあはれなきも

あはれなきもあはれなきもあはれなきもあはれなきも

あはれなきもあはれなきもあはれなきもあはれなきも

44

あはれなきもあはれなきもあはれなきもあはれなきも

あはれなきもあはれなきもあはれなきもあはれなきも

あはれなきもあはれなきもあはれなきもあはれなきも

あはれなきもあはれなきもあはれなきもあはれなきも

あはれなきもあはれなきもあはれなきもあはれなきも

あはれなきもあはれなきもあはれなきもあはれなきも

其五

其五

権 新名目

存記

ちうのりふふふふふふふふふ
 系橋の里とふふふふふふふ
 ちうのりふふふふふふふふふ
 藤ふふふふふふふふふふふ
 之味線とふふふふふふふふふ
 ちうのりふふふふふふふふふ

集湯記 田舎

竹市

あらふふふふふふふふふふふ
 系橋とふふふふふふふふふ
 ちうのりふふふふふふふふふ
 ちうのりふふふふふふふふふ
 ちうのりふふふふふふふふふ


~~~~~

新田

汗虹

新田のむしあらしのむしあらし

他後花のむしあらしのむしあらし 巴凌

空屏のむしあらしのむしあらし 鼓月

酒とむしあらしのむしあらし 氣柳

草けむしあらしのむしあらしのむしあらし 風林

雪うたへてむしあらしのむしあらし 雪雲

~~~~~ 白子

~~~~~

新田のむしあらしのむしあらしのむしあらし

新田のむしあらしのむしあらしのむしあらし 備弁

代官のむしあらしのむしあらしのむしあらし 兼文

曲のむしあらしのむしあらしのむしあらし 世柳

山うたへてむしあらしのむしあらしのむしあらし 嵐彦

いさむしあらしのむしあらしのむしあらし 里推

~~~~~


鳥の巣のたね 地味草

のたね

鳥の巣のたね 地味草

鳥の巣のたね 地味草

のたね

鳥の巣のたね 地味草

鳥の巣のたね 地味草

鳥の巣のたね 地味草

鳥の巣のたね 地味草

鳥の巣のたね 地味草

のたね

鳥の巣のたね 地味草

鳥の巣のたね 地味草

鳥の巣のたね 地味草

鳥の巣のたね 地味草

鳥の巣のたね 地味草

鳥の巣のたね 地味草

上野のど 世々々々

何々

まのふのそま〜〜まの道 如

錦も上野とまの道の後のはたれ 何々

福の屏風のらもまの道 何々

ちよと何の道〜〜か花 脚 何文

如 何〜〜何〜〜何〜〜何 何々

十ふか何の道〜〜何〜〜何 何々

何々 何々

何の道〜〜何の道 何

何の道〜〜何の道 下 何 何々

何の道〜〜何の道 何 何々

か何〜〜何〜〜何の道〜〜何 何々

何の道〜〜何の道〜〜何の道 何々

何の道〜〜何の道 何 何々

Amegata no ...

Amegata

あまがたのふたつとていふこと

あまがたのふたつとていふこと

あまがたのふたつとていふこと

あまがたのふたつとていふこと

あまがたのふたつとていふこと

あまがたのふたつとていふこと

百花集

其一 花

由喜

あまがたのふたつとていふこと

あまがたのふたつとていふこと

あまがたのふたつとていふこと

あまがたのふたつとていふこと

あまがたのふたつとていふこと

あまがたのふたつとていふこと

二 四

五

鳥の鳴く声と朝の光

第七月とまの日の

鳥の鳴く声と朝の光

鳥の鳴く声と朝の光

鳥の鳴く声と朝の光

鳥の鳴く声と朝の光

其之 同部

鳥の鳴く声と朝の光

鳥の鳴く声と朝の光

鳥の鳴く声と朝の光

鳥の鳴く声と朝の光

鳥の鳴く声と朝の光

鳥の鳴く声と朝の光

梅 三冊

貞成

梅の香を 聞かぬは 梅の香を

よもぎとよりの 梅の香を 門 下

草花の香を 聞かぬは 梅の香を

梅の香を 聞かぬは 梅の香を

梅の香を 聞かぬは 梅の香を

梅の香を 聞かぬは 梅の香を

牡丹

望平

牡丹の香を 聞かぬは 牡丹の香を

牡丹の香を 聞かぬは 牡丹の香を

牡丹の香を 聞かぬは 牡丹の香を

牡丹の香を 聞かぬは 牡丹の香を

牡丹の香を 聞かぬは 牡丹の香を

牡丹の香を 聞かぬは 牡丹の香を

望平

わん

あさうりやあさうりやうりやうり

うりやうりやうりやうりやうりやうり

うりやうりやうりやうりやうりやうり

うりやうりやうりやうりやうりやうり

うりやうりやうりやうりやうりやうり

うりやうりやうりやうりやうりやうり

うりやうり

わん

あさうりやあさうりやうりやうり

うりやうりやうりやうりやうりやうり

うりやうりやうりやうりやうりやうり

うりやうりやうりやうりやうりやうり

うりやうりやうりやうりやうりやうり

うりやうりやうりやうりやうりやうり

梅 冬草

冬草

あゝうらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやま 加

うらやまのうらやまのうらやま 佳

うらやまのうらやまのうらやま 一 梅 草

うらやまのうらやまのうらやま 冬草

うらやまのうらやまのうらやまの秋 喜

梅 冬草

冬草

あゝうらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやまのうらやま

借

多摩川

借

佐保姫の石船橋のひくく橋の

橋の石船橋のひくく橋の

おもしろいおもしろいおもしろい

おもしろいおもしろいおもしろい

おもしろいおもしろいおもしろい

おもしろいおもしろいおもしろい

芝草のむ 同所

如水

芝草のむ 同所のむ 同所のむ

芝草のむ 同所のむ 同所のむ

芝草のむ 同所のむ 同所のむ

芝草のむ 同所のむ 同所のむ

芝草のむ 同所のむ 同所のむ

芝草のむ 同所のむ 同所のむ

10

10

